

萬鉄五郎 死者の肖像

— 萬鉄五郎が描いた肖像画 —

2018年
4月21日(土)
7月8日(日)

開館時間 / 8時30分～17時まで (入館は16時30分まで)
休館日 / 月曜日 (月曜日が祝日の場合、その翌日)
※5月1日(火)は開館します。

「入館料」* (内は20名以上の団体料金)

一般 / 500円 (450円) 高校・学生 / 300円 (250円) 小・中学生 / 200円 (150円)

〈主催〉萬鉄五郎記念美術館
〈後援〉岩手日報社、岩手日日新聞社、盛岡タイムス社、河北新報社、朝日新聞盛岡支局、読売新聞盛岡支局、毎日新聞盛岡支局、産経新聞盛岡支局、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、ラヂオもりおか、奥州エフエム花巻ケーブルテレビ、ええむ花巻

第38回 萬鉄五郎祭式典

【日時】5月3日「木・祝」14時～14時30分

土澤アートクラフトフェア

【日時】5月3日「木・祝」、4日「金・祝」10時～16時

i Water Paint ボルジャーアート vol.7

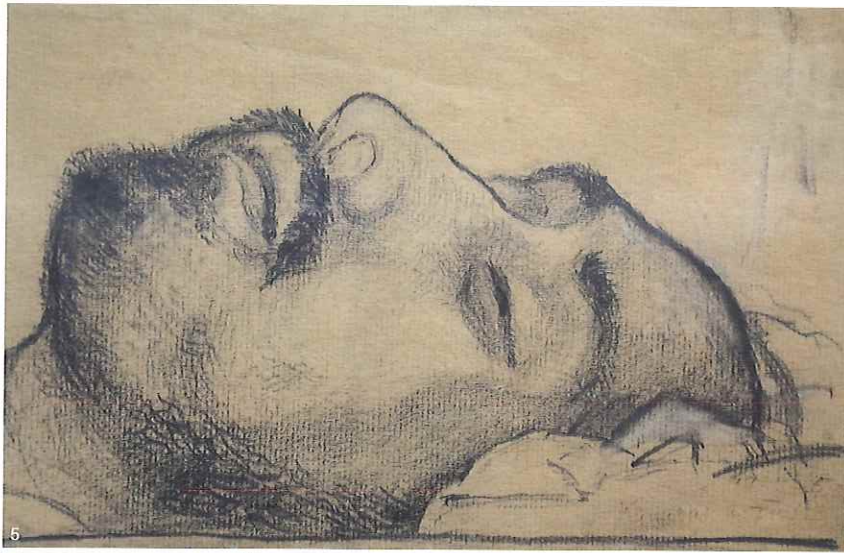
菅沼緑《SUGANUMA ROKU》展

【日時】4月21日「土」～7月8日「日」9時～16時30分

萬鉄五郎記念美術館

〒028-0114 岩手県花巻市東和町土沢5-135 TEL.0198-42-4402 FAX.0198-42-4405

四角左上から時計回り / 肖像画「萬鉄五郎記念美術館」萬鉄五郎記念美術館 / 肖像画「萬々々」萬鉄五郎記念美術館 / 肖像画「萬々々」萬鉄五郎記念美術館 / 岩手県立美術館寄託 / 肖像画「小田原孫次郎」萬鉄五郎記念美術館 / 肖像画「久慈直太郎」個人蔵 / 萬鉄五郎記念美術館 / 肖像画「萬原長太郎」個人蔵



1. 萬鉄五郎《肖像画「萬昌一郎像」》油彩・画布 45.6×33.5cm 1916（大正5）年頃 萬鉄五郎記念美術館
2. 萬鉄五郎《肖像画「高橋一男像」》油彩・画布 45.6×33.5cm 1916（大正5）年頃 萬鉄五郎記念美術館
3. 萬鉄五郎《肖像画「祖母像」》油彩・画布 48.0×33.0cm 1908（明治41）年頃 萬鉄五郎記念美術館
4. 萬鉄五郎《肖像画「菅原ハツ像」》油彩・画布 45.6×33.5cm 1916（大正5）年頃 個人蔵
5. 金澤重治《萬鉄五郎のデスマスク》木炭・紙 15.5×24.0cm 1927（昭和2）年 個人蔵
6. 小林徳三郎《静物（シャクヤク）》油彩・画布 23.8×19.0cm 1928（昭和3）年頃 萬鉄五郎記念美術館
7. 小林徳三郎《静物（ひょうたんとレモン）》油彩・画布 19.3×34.6cm 1931（昭和6）年頃 萬鉄五郎記念美術館

萬鉄五郎は、明治後期から大正期全般にわたって新しい絵画表現に挑んだアバンギャルドの画家として知られています。二〇一七年には没後九〇年を期して大規模な全国巡回展が開催され、その評価は益々活気を帯び、世界基準での位置づけも待たれるところです。

しかし、未だ手つかずの未調査部分も残されていることも事実です。本展はその第一弾として、萬鉄五郎が描いた肖像画に注目してみました。それらの多くは一九一五（大正4）年に催した「萬鉄五郎画会」で、求めに応じて描かれた肖像画です。その表現は、彼が作品化するタプロローとは違い、「萬が描いた作品なの？」と首を傾げるものばかりです。

画家である一方で、家族を養う一家の主でもあった萬は、暮らしを立てていく必要があったことは言うまでもありません。これらの肖像画は、日々の糧をまかなう生活手段として描かれたものですが、こにも萬の表現者としての一面が隠されていることも見逃すことはできません。制作年代による描法の違いやテクスチャーのギャップ、などなど……。写真を基に描かれたそれらにも絵画化するうえでの振幅が認められます。

本展では、画会関連の肖像画に加え、萬家に残されていた肖像画や各地に散見される作品情報をたどりながら、およそ20点の作品を初公開するとともに、画家仲間の金澤重治が描いた萬鉄五郎のデスマスクも併せて紹介します。さらに、新発見のタプロローや貴重な写真資料に加え、「円鳥会」を萬とともに主宰した小林徳三郎の作品も公開します。

萬鉄五郎は、明治後期から大正期全般にわたって新しい絵画表現に挑んだアバンギャルドの画家として知られています。二〇一七年には没後九〇年を期して大規模な全国巡回展が開催され、その評価は益々活気を帯び、世界基準での位置づけも待たれるところです。

しかし、未だ手つかずの未調査部分も残されていることも事実です。本展はその第一弾として、萬鉄五郎が描いた肖像画に注目してみました。それらの多くは一九一五（大正4）年に催した「萬鉄五郎画会」で、求めに応じて描かれた肖像画です。その表現は、彼が作品化するタプロローとは違い、「萬が描いた作品なの？」と首を傾げるものばかりです。

画家である一方で、家族を養う一家の主でもあった萬は、暮らしを立てていく必要があったことは言うまでもありません。これらの肖像画は、日々の糧をまかなう生活手段として描かれたものですが、こにも萬の表現者としての一面が隠されていることも見逃すことはできません。制作年代による描法の違いやテクスチャーのギャップ、などなど……。写真を基に描かれたそれらにも絵画化するうえでの振幅が認められます。

本展では、画会関連の肖像画に加え、萬家に残されていた肖像画や各地に散見される作品情報をたどりながら、およそ20点の作品を初公開するとともに、画家仲間の金澤重治が描いた萬鉄五郎のデスマスクも併せて紹介します。さらに、新発見のタプロローや貴重な写真資料に加え、「円鳥会」を萬とともに主宰した小林徳三郎の作品も公開します。

萬鉄五郎 死者の肖像

萬鉄五郎が描いた肖像画

第38回 萬鉄五郎祭

〔日時〕5月3日〔木・祝〕

〔会場〕萬鉄五郎記念美術館前

●式典 日時 5月3日〔木・祝〕14時～14時30分
会場 萬鉄五郎記念美術館前

●写生活会 日時 4月22日〔日〕9時～12時
会場 萬鉄五郎記念美術館周辺

参加費 500円（幼児から一般まで）
参加者には作品をプリントしたエコバックを差しあげます

●写生活会作品展 5月2日〔水〕～5月13日〔日〕9時～21時
会場 花巻市立東和図書館通路展示スペース
（花巻市東和町安儀6-90）

土澤アートクラフトフェア

〔日時〕5月3日〔木・祝〕・4日〔金・祝〕10時～16時
会場 萬鉄五郎記念美術館前&土澤商店街

県内外から美術品や工芸品いろいろな手づくり作品のお店360組が大集合
〔当日は公共交通機関をご利用下さい〕

菅沼緑《SUGANUMA ROKU》展

〔日時〕4月21日〔土〕～7月8日〔日〕9時～16時30分
会場 萬鉄五郎記念美術館「八丁土蔵ギャラリー」
〔料金は無料〕



萬鉄五郎記念美術館

〒028-0114 岩手県花巻市東和町土沢5-135
TEL.0198-42-4402 FAX.0198-42-4405